

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：34327

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10295

研究課題名(和文) 救急・集中治療領域の非がん患者を対象とした看護師の緩和ケア教育活動推進モデル開発

研究課題名(英文) Development of a model for promoting palliative care education activities for nurses targeting non-cancer patients in the emergency and intensive care areas

研究代表者

田村 葉子 (Tamura, Yoko)

京都看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：40518966

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、我々が開発した教育プログラム「ELNEC (End-of-Life Nursing Education Consortium)-Jクリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム」を修了した指導者(ELNEC-JCC指導者)が、「クリティカルケア領域における緩和ケア教育」を実施する上で、どのような課題をもっているかを明らかにすることである。指導者交流会のアンケート結果より、「指導者自身の課題」、「運営に関する課題」、「人材確保の課題」があることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ELNEC-JCC指導者の「非がん患者の緩和ケア教育」における課題を明らかにすることは救急・集中治療領域における緩和ケア教育の普及に貢献できると考える。さらに、救急・集中治療領域での系統だった緩和ケアプログラムの普及が、救急・集中治療領域に勤務する看護師の緩和ケア、また重篤な状態にある患者・家族へのケアの質の向上につながると考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to determine what challenges instructors (ELNEC-JCC instructors) who completed the End-of-Life Nursing Education Consortium (ELNEC)-J Critical Care Curriculum Instructor Training Program, an educational program we developed, have in implementing "palliative care education in the critical care area. The results of the survey at the leadership exchange suggested that there are "issues for the leaders themselves," "issues related to management," and "issues in securing human resources."

研究分野：クリティカルケア看護

キーワード：クリティカルケア エンドオブライフケア 看護教育 プログラム開発

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

我が国は、科学医療技術のめざましい進歩により、以前は救命困難であった症例も、最先端の治療法が選択肢として提供され、延命も期待できるようになった。そのような中で、急性期の重症患者に対する終末期医療に関して、2014年に日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本循環器学会から「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン」が発表された。しかしながら、救急・集中治療領域において、循環器疾患などの非がん患者に対する終末期の患者に質の高いケアを提供するための看護教育は十分に行われていない。

そこで、我々の研究グループは2015年度より学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤C）により「救急・集中治療領域における終末期ケア看護教育プログラムの開発及び効果の検証」の中で、「救急・集中治療領域における教育的立場にある看護師および大学教員を対象にエンド・オブ・ライフ・ケア教育の実態調査」を実施した。その結果、救急・集中治療領域におけるエンド・オブ・ライフ・ケア教育を実施した者は約3割のみであることが明らかになった。これは、救急・集中治療領域での教育内容として、重症病態の急激な変化を予測し得るアセスメント能力を養う教育、呼吸・循環・栄養・代謝・体温・疼痛管理を理解するための教育、人工呼吸器装着中患者の口腔ケア、早期離床、感染予防などのケア技術についての教育、人工呼吸器などのME機器についての教育などが優先され、エンド・オブ・ライフ・ケア教育が未だ十分に実施されていないことが要因と考える。

この結果を受け、我々の研究グループは2015年～2016年にかけて、日本の文化、倫理に即したELNEC Critical Careの日本版である「ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラム指導者用ガイド」を開発した（Tamura, 2023）。このガイドは、指導者としてすぐに活用できるコンテンツ（パワーポイント資料、指導者用アウトライン、ケーススタディ事例、ロールプレイ事例等）を含み、現在までに約200名の指導者を輩出した。この指導者がこのガイドを用いて、「ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラム看護師教育プログラム」を開催したところ、これまでに約500名の受講者があり、非常に関心の高いプログラムであることがわかった。また、宮崎ら（2016）の研究においても、クリティカルケア領域におけるエンド・オブ・ライフ・ケアを困難にする要因の1つとして「これまでの教育課程の中で、死の場面に対応する教育や訓練が少ない」とも言われており、救急・集中治療領域でのエンド・オブ・ライフ・ケア教育へのニーズは非常に高く、今後もお一層の普及と指導者を育成し、その活動を拡大することが急務であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の2点である。

- (1) ELNEC-JCC指導者の「非がん患者の緩和ケア教育」における課題を明確化（実態調査）すること
- (2) ELNEC-JCC指導者が救急・集中治療領域における「非がん患者の緩和ケア教育」を実施するうえでの課題と補填可能な教育活動推進モデルの開発を行い、その効果を検証すること

3. 研究の方法

(1)の実態調査に先立ち、ELNEC-JCC指導者交流会を3回開催した。参加したELNEC-JCC指導者を対象に、「クリティカルケア領域における緩和ケア教育」を実施する上で、「どのような課題をもっているか」「どのようなサポートが必要か」について、アンケート調査を実施し、その内容を分析した。

4. 研究成果

(1) 3回の交流集會でおこなったアンケートの結果を述べる。

- ① 2019年3月3日の日本集中治療医学会学術集會の看護交流集會にて「ELNEC-JCC開催に向けてのポイント：ファシリテーションと運営」を行った。その後のアンケートでは、「自身のファシリテーター力・プレゼンテーション力の不足」「運営に関する不安」「所属施設への依頼方法」などの課題が明らかになった。
- ② 2021年3月6日にELNEC-JCC開発研究会主催の第1回ELNEC-JCC指導者フォローアップ交流会をWEBで開催した。40名の参加者のうち、34名よりアンケートの返信があった（回答率85%）。参加者の8割が急性・重症患者看護専門看護師などの有資格者であった。交流会の参加動機として、「看護師教育プログラムを開催するためのヒントやポイントを知りたかったから」が52.9%と最も多かった。ついで「ELNEC-JCC指導者用ガイド2020の改訂内容に関する疑問を解決したかったから」が17.6%と多かった。交流会の満足度については、52.9%の参加者が「とても満足した」、44.1%の参加者が「満足した」と答えた。「とても満足した」と回答した理由として、「近隣の方との指導者との交流が刺激となった」「開催に向けてのモチベーションがあがった」「他施設の方の話がきけてよかった」「悩みを共有し解決できた」「他施設の方も同じような困難感を抱いて開催していることがわかった」「近隣施設の方と協力できればと思えたことが良かった」などの回答があった。交流会に参加後、

79.4%の指導者が「是非、看護師教育プログラムを開催したい」と思っている一方、11.8%の指導者は、「開催したいが開催できないと思う」と回答した。

- ③ 2023年2月12日にELNEC-JCC開発研究会主催の第2回ELNEC-JCC指導者フォローアップ交流会をWEBで開催した。55名の参加者のうち、55名よりアンケートの返信があった（回答率100%）。参加者の8割が急性・重症患者看護専門看護師等の有資格者であった。交流会の参加動機としては、「講演：クリティカルケア領域のエンド・オブ・ライフ・ケアにおけるケアリングに興味があったから」が85.8%と最も多かった。ついで「ELNEC-JCC指導者として活動する方法を知りたかった」が65.5%と多かった。交流会の満足度については、67.3%の参加者が「とても満足した」、32.7%の参加者が「満足した」と答えた。「とても満足した」「満足した」理由として、「講演が今後の指導者としての学びにつながった」「エンドオブライフケアに対する興味がさらに深まった」「経験を語って頂き、わかりやすかった」「実際に活動された方の意見を伺い、少しやってみたいなという気持ちになれた」「あらためて勉強する機会になった」「何となく勇気づけられました」などの回答があった。交流会に参加後、34.5%の指導者が「是非、看護師教育プログラムを開催したい」と答えた。一方、「開催はできないが講師として参加したい」が7.3%、「開催はできないがファシリテーターとして参加したい」が34.5%、「開催したいが開催できないと思う」が5.5%であった。
- (2) アンケート結果から抽出された「クリティカルケア領域における緩和ケア教育」を実施する上での課題を表1に、指導者が必要だと考える課題克服に向けたサポート内容を表2に示す。

表1. 「クリティカルケア領域における緩和ケア教育」を実施する上での課題

【指導者自身の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者自身のファシリテーター力の不足 ・プレゼンテーション力の不足 ・講師・ファシリテーターの経験が少ないこと ・本務との調整
【運営に関する課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者が決まらない ・運営に関する不安 ・所属施設への依頼方法 ・スタッフ・資金の確保 ・オンラインでの開催方法 ・組織の理解が得られない ・開催する準備とそのプロセスがわからない
【人材確保の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・県内に指導者が存在していない ・講師・ファシリテーターの確保が難しい

表2. 指導者が必要だと考える課題克服に向けたサポート内容

【指導者自身へのサポート】	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なフォローアップ（再学習の機会） ・指導者間の情報共有の場
【運営に関するサポート】	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・運営の方法論について学べる場 ・運営に関する相談の場 ・共同開催者の確保 ・予算確保の方法 ・参加者の確保方法 ・オンライン開催の際のテクニカルサポート ・コアメンバーのサポート
【人材確保のサポート】	<ul style="list-style-type: none"> ・講師・ファシリテーターの派遣（特に地方で開催する場合） ・講師・ファシリテーターをフォローする人材の確保

- (3) これらの成果を基に、今後、下記の研究を進めていく予定である。
- ① 「クリティカルケア領域における緩和ケア教育」に対する課題を明らかにするために、ELNEC-JCC指導者全員（約400名）を対象に調査を実施する。
 - ② 指導者が必要と考えるサポート内容が明らかとなったため、さらに、指導者の教育活動を推進するモデルの開発とその効果を検証する。

<引用文献>

日本集中治療医学会. (2014). 救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言～. 2023, 06, 29 閲覧, <https://www.jsicm.org/pdf/lguidelines1410.pdf>
 Tamura Y, Nishiyama C, Takenouchi S, Sato R, Kiyohara K, Nin K. Development and Effectiveness of an End-of-Life Care Program for Faculty in the Critical Care Field.

(in press) *Journal of Hospice and palliative Nursing*. 2023;25(4).

宮崎美保, 渡邊百合香, 平松貴, 唐鎌紗那恵, 南館絵美, 工藤由花. (2016). 終末期医療を困難にする要因からみた ICU の現状と看護師の困難感. 東邦看護学雑誌, 13, 43-48.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	任 和子 (Nin Kazuko) (40243084)	京都大学・医学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	竹之内 沙弥香 (Takenouchi Sayaka) (00520016)	京都大学・医学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	宇都宮 明美 (Utsunomiya Akemi) (80611251)	関西医科大学・看護学部・教授 (14301)	
研究分担者	北村 愛子 (Kitamura Aiko) (90772252)	大阪公立大学・看護学研究科・教授 (24403)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関